

乳質改善のために ～日々の観察とデータ管理を行おう！～

体細胞：乳房の健康の指標

「乳質」と聞けば「体細胞」を連想される方も多いでしょう。体細胞数は乳房(乳腺)の健康度の指標であり、高い体細胞数は乳腺に炎症が起きている証拠といえます。乳質改善のためには、体細胞数を安定的に低くコントロールしなければなりません。

体細胞数のゴールは？

では、どのくらいの体細胞数なら安心ですか？30万を超えなければOKですか？

答えは20万以下です。体細胞数を20万以下にコントロールしていれば、突発事項にも対応できますし、乳房の健康度合いに問題は少ないといえるでしょう。

通常、すべての牛の体細胞数が高いということは考えにくく、1～2割程度の牛が牛群の体細胞数を押し上げている事例をよく目にします。つまり、どの牛が体細胞数を押し上げているかを把握できれば対策も容易になるはずで。

そのためには日々の観察がとても大事になります。次のリストを参考にしてみてください。

問題牛発見のためのチェックリスト

①日々の観察：搾乳時の乳房の状態（ブツ、PLテスト）

搾乳時はストリップカップやPLテスターを活用し、早期発見に努めましょう。

②旬ごとの確認：旬報（体細胞数、乳成分）

旬報が2回連続で上昇または低下したら要注意。何かが起こっている徴候です。問題点・問題牛を見つけ出し、早めに対処しましょう。

③月ごとの確認：乳検（個体データ）

問題牛を特定するには乳検が役に立ちます。搾乳時の観察と乳検によるWチェックで問題牛を摘発し、早期治療などの対策を打ちましょう。

④数カ月ごとの確認：バルクスクリーニング検査（乳房炎起因菌の確認）

乳検では乳房炎起因菌まではわかりません。そこで定期的な細菌検査で菌の種類を調べています。もしSAが検出されたなら保菌牛が潜んでいます。環境性の菌が多ければ、農場の衛生管理をより厳密に行う必要があることがわかります。

牛も人も気持ちよく、良質乳生産を行いましょう！

(2018年8月発行 十勝農業改良普及センター十勝東北部支所)